



元日に「おせち」を食べたのは 団塊の70%、団塊ジュニアの56%

お正月の三が日で「朝食・夕食におせち料理を食べたか」を聞いたところ、「おせち」に関しては、元日の朝食で団塊の70%、ジュニアの56%と最も高く、2日、3日となるにしたがって下がっていった。(グラフ)

夕食に関しては、やはり朝食よりは少ない数値であったものの、全体としては、朝・昼・夜のいずれかでほとんどの人がお正月に「おせち」に接しているようである。

結果として、3が日間でおせち料理はかなり食べられていると言えるが、団塊Jr.に関しては、「おせち」を食べた半数以上が、実家へ里帰りしている間に食べているようであった。

「すき焼き」「寿司」も 3世帯に1世帯が夕食で食べている

お正月の食事の推移をみると、団塊Jr.の中では、元日の朝食から「パン・サンドイッチ」を摂食している層も多く、彼らは元日の昼食・夕食には実家で「おせち」や「雑煮」を食べているケースが多い。朝食に「おせち」や「雑煮」を食べている人は、程度の差はあれ、自分でお正月料理を用意している場合が多いようであった。

団塊世代は3日目で「おせち」と「パン」の件数がほぼ同じとなったのに対し、団塊Jr.は2日目にはほぼ、「おせち」「雑煮」と「パン食」の数がほぼ同じになった。(グラフ)

お正月3日間に人気の夕食では、団塊の1位が「おせち」、2位は「野菜サラダ」、3位「ごはん」と続く。上位ではないながら目立ったのは「刺身」、そして「雑煮」。
一方の団塊Jr.では、1位「おせち」、2位「ごはん」、3位「野菜サラダ」と団塊と同種の物が並んだ。特に目についたのは、「すき焼き」と「寿司」であった。
「すき焼き」と「寿司」に関しては、三が日の夕食時、それぞれ3世帯に1世帯が食べている。正月のお祝い食としての定着ぶりがみられた。

<調査概要>

調査方法：リビング新聞の読者モニターを対象とした日記調査

調査期間：2006年12月22日～2007年1月4日 14日間

対象者属性：団塊主婦 47人 団塊Jr.主婦 50人

調査内容：●生活行動(食事メニュー、接触メディア、外出内容、支出内容、家事内容)
●購買行動(利用店舗と選択理由、店舗利用時の状況、購入商品とその理由)

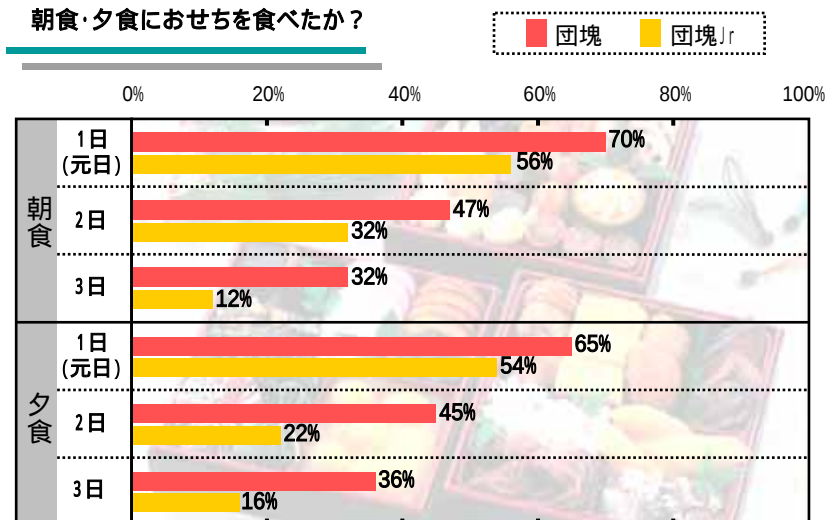
リビングくらしHOW研究所 女性の意識と行動を分析・研究する、リビング新聞グループのマーケティングカンパニーです。あらゆる消費の中心に存在する女性生活者と、より深く、効果的なコミュニケーションを実現するための情報を発信しています。

ウェブサイト <http://www.kurashihow.co.jp>

問い合わせ TEL03-5216-9420 FAX03-5216-9430

グラフ

朝食・夕食におせちを食べたか？



グラフ

3日間の「お正月の食事」の推移

